

提 言 書

令和4年3月14日

令和3年度
とっとり若者地方創生会議

とっとり若者地方創生会議（令和3年度）

会 長	上野	莉里花	（公立鳥取環境大学 環境学部 2年）
副会長	下江	信之介	（公立鳥取環境大学 環境学部 1年）
委 員	清水	愛結	（鳥取大学 地域学部 1年）
	下家	和佳奈	（鳥取大学 地域学部 1年）
	田村	結依	（鳥取市医療看護専門学校 作業療法士学科 1年）
	藤田	颯司	（鳥取市医療看護専門学校 作業療法士学科 2年）
	吉澤	美月	（公立鳥取環境大学 経営学部 2年）

1 会議等開催実績

○会議（全16回）

令和3年	7月 2日・29日
	8月23日
	9月13日・27日
	10月14日・21日・28日
	11月11日
	12月 1日・16日
令和4年	1月24日
	2月16日・24日・28日
	3月11日

2 本年度の主な活動内容

- (1) 鳥取市の魅力を発信する動画の作成
- (2) 鳥取市内に住む学生と地域との繋がりをつくるイベントの検討
- (3) 鳥取市の魅力を再発見する為のヒアリング調査の実施
 - ・第1回：1月10日 実施場所…青島、とっとり出会いの森、とっとり賀露かっこ館、久松山
 - ・第2回：2月13日 実施場所…鳥取砂丘付近

3 背景

鳥取市の老年人口（65歳以上）は、1980年以降増加する一方で、年少人口（0～14歳以上）は減少してきており、2000年以降、老年人口が年少人口を上回る状態が続いている。また、生産年齢人口（15～64歳）についても減少している。鳥取市では、就職や進学による若者の大都市圏への流出が続いており、地域経済やコミュニティを支える担い手が不足し、地域の活力が低下していくことが懸念される。今後、将来を担っていく存在である若者の地域定着を促進する政策が求められている。

4 活動内容

令和3年度のとっとり若者地方創生会議では、若者の移住定住の促進を目的とした活動を展開してきた。より多くの若者の移住定住を促進するためには、まずは若者自身が鳥取市の

魅力を再発見する必要があると考え、今回はモデル地域として鳥取市佐治町に焦点を当て、佐治町へUターンをされた方へのインタビュー動画の作成や、鳥取市内に住む学生が地域コミュニティと関わるきっかけをつくるイベントの開催について検討を行った。また、鳥取市内の観光スポット等を訪れている方を対象に、鳥取市の魅力を再発見する為のヒアリング調査を実施した。

5 活動経過

平成 28 年度からの活動内容を以下の表にて整理した。これまでこの会議の委員は、主に鳥取大学と公立鳥取環境大学の学生で構成していたが、令和 3 年度は新たに鳥取市医療看護専門学校の学生も委員として加わり、多様な視点・考えを議論に反映させることができた。また、佐治町へUターンをされた方へのインタビューや鳥取市内の観光スポット等を訪れている方へのヒアリング調査を行ったことで、間接的ではない貴重なデータを集める事が可能となった。鳥取市出身者や鳥取県外出身者といった様々な視点を持つメンバーの特性を活かし、多くの制限が課される中でも、私達学生だからこそ出来る活動をこの 1 年間を通して行うことが出来たと実感している。また、今年度の取り組みの成果を確認出来た事、反対に直接話を伺う中で発見した課題があった事、活動を通して感じた課題や鳥取市の利点など、明らかになった事を踏まえて来年度の活動へとつなげていきたい。

以下、来年度のとっとり若者地方創生会議の活動として次のテーマを提案、又提言する。

とっとり若者地方創生会議のこれまでの活動内容

年度	魅力発見	働く	広報	イベント	視察	意識調査
H28		社会人との交流会「カフェ de トーク」	大学祭でのアンケート		島根県雲南市	
H29	バスツアー「よるバス」	社会人との交流会「カフェ de トーク 2」	新入生向け街歩きマップの作成「とっとりぐるっぽ地図」			
H30		企業見学会「企業まる見え！見学隊」（大山乳業・鳥取銀行）			岡山市大学生ワークショップ参加	学生への広報のしかた「つながるハンドブック」
R1	市の農産物紹介「とっとり旬を味わうカレンダー」	企業採用者との意見交換「鳥取就職大討論会」（鳥取銀行、ひよこカンパニー、LASSIC）	市の農産物紹介「とっとり旬を味わうカレンダー」	学生交流会「イドバタ」		
R2			新たな SNS による情報発信の検討	地域活動がテーマの交流会「飛び込め！活動の環～地域に踏み出すステップアップ交流会～」		若手社会人への移住定住に関するインタビュー調査
R3	鳥取市の魅力を再発見する為のヒアリング調査		鳥取市の魅力を発信する動画作成	鳥取市内に住む学生と地域との繋がりをつくるイベントの検討		鳥取市の魅力を再発見するためのヒアリング調査

7 提言内容

◆テーマ

『鳥取市の魅力の再発見と定住を促進するためのイベント検討、若者による主体的な活動を支援する取り組みの考案』

◆ 達成のための取り組み

- ① 地域の生の声を届ける（経験者の話を通して知る地域の魅力を発信する動画作成）
- ② 学生と地域の途絶えない繋がり構築（定住を促進するイベントの検討）
- ③ 若者への支援（鳥取の未来を見据えたワークショップの開催と参加学生に対する支援体制の確立）

① 地域の生の声を届ける（経験者の話を通して知る地域の魅力を発信する動画作成）

私達は、若者の移住定住の促進に向けた取り組みを検討するにあたって、地域の魅力をより明確にするため、鳥取市の旧市町村という単位に注目した。今回は、鳥取市佐治町へUターンをされた方に直接インタビューを行い、動画作成を行った。その方のお話からは、なぜ佐治町にUターンしてきたのか、佐治町にはどんな魅力があると感じているのか、これまでの経験談を通じて様々な思いを知る事が出来た。移住定住を考えた際、最も有効な情報として考えられるのは既にその地域で移住定住をされている人のお話を聞く事であると考えられる。しかし、そういった方々のお話を聞くという機会は少ない。新聞やSNSを通して体験談や経験談を知るより、その人の声で思いや魅力を届ける事が出来れば、その地域の魅力は伝わりやすいのではないだろうか。佐治町には今回インタビューをさせていただいた方の他にも地域を活性化させようと頑張っている方々は沢山いる。また佐治町だけに限らず鳥取市内には知られていないだけで、隠れた人材が多く存在していると考えられる。鳥取市内のそれぞれの地域において、地域活性化に取り組んでいる方々にインタビューをし、簡単に動画として紹介することは、より一層その地域に対するイメージが膨らみやすくなるはずだ。そうすることで、移住定住を考えている若者たちにとっても、自分がしたいと思っ描いている事と合致する地域を探しやすくなり、ゆくゆくは移住定住の促進としても繋がる取り組みとなるのではないだろうか。

② 学生と地域の途絶えない繋がり構築（定住を促進するイベントの検討）

鳥取市には、地域をよくしたいと思う意欲ある団体や個人が多く存在しているが、その情報が十分に周知されていないと考える。つまり、鳥取市では意欲のある人たちが自分から情報を掴むことで、魅力のある活動団体に出会うことが出来るが、行動を起こせずにいる人たちにとっては既存のコミュニティに入りづらい環境となっていることが考えられる。

そこでとっとり若者地方創生会議では、地域の繋がりを知らない学生に向けて、コミュニティに関わる第一歩を手助けするという事を目的として掲げ、イベントを企画した。新型コロナウイルス感染症の影響等によりイベントの実施は見送ったが、鳥取市内に住む学生をターゲットに、佐治町の3つの地域団体の取り組みの紹介やその内容を踏まえて佐治町の課題を議論し解決策を考えるワークショップの開催、また、実際に佐治町に赴き、地域に入って住民の方と話をしたり体験をしたりと、学生と地域との繋がり構築の先駆けとなるイベントの開催を検討した。地域の繋がりを知らない学生に注目した点は、今後の市の政策として取り組んでいく上でも重要なポイントとなってくるのではないだろうか。進学を機に鳥取市に来たという学生は沢山いる。彼らの中にある地域の繋がりを知らない学生が、地域のコミュニティと関わる第一歩となる手助けを行っていくことは、今後の移住定住の促進に繋がると考える。

③ 若者への支援（鳥取の未来を見据えたワークショップの開催と参加学生に対する支援体制の確立）

鳥取市からの若者流出の原因の一つとして、若者に鳥取市の魅力を発信しきれていない、そもそも若者が鳥取市の魅力に気づけていない現状があるのではないかと考える。そこで、今回、本会議では鳥取市の観光スポットを訪れていた様々な年代・立場の方へヒアリング調査を実施した。ヒアリング調査を通して明確になったのは、普段は聞くことが出来ない鳥取市に対する思いや魅力の数々。鳥取市出身の学生でさえも、言われてみないと気づかなかったと感じるような魅力を発掘する事が出来た。このことを踏まえ、将来、進学や就職のため県外へ転出する可能性のある鳥取市内の高校生が、色々な視点から鳥取市を知り、鳥取市の将来を考える機会をつくることが重要ではないかと考える。そこで、鳥取市内の高校生に向けて、次のような事業を実施することを提案する。

現在鳥取市は、人口減少・少子高齢化に伴う生活関連サービスや地域公共交通の縮小、空き家や耕作放棄地の増加、地域コミュニティの衰退といった課題に直面しており、鳥取市創生総合戦略に基づき、雇用の創出や移住定住の促進、子育て支援などの施策に取り組んでいる。鳥取市の未来を考える上で、上記に加え重要となる視点として、縮小した人口規模において発生し得る課題の発掘、バックキャスト思考による課題解決案の検討が考えられる。さらに、これらの取り組みに学生が参加することで、鳥取市における持続可能な社会の実現に効果を発揮すると考えた。そこで、高校生による政策立案、市長への提言を含む、行政主導のワークショップを開催することを提案する。政策を立案するにあたり、基礎となる知識習得のサポートには、高校生向けに編集した鳥取市の統計ブック（人口、産業、エネルギー等）の作成、大学教員や市職員による出前講座の実施、また、円滑な議論を進めるための人材として、県内外出身の大学生や若手職員によるサポート体制の確立が考えられる。期待できる効果としては、学生の鳥取への関心の向上、進学就職後の活躍、さらには、市外における関係人口の創出、行政の職員の方々と若者の間にある壁を取り除いたことによる、若者の主体的な活動の支援強化も期待できる。

このような取り組みを今後も行う事によって、学生にとっても貴重な体験を積む場となる他、学生と言う立場だからこそ出来るという存在に対する魅力というのも実感できる事に繋がり、将来的には本会議の冒頭部分で掲げていた、「鳥取市が実施する若者定着を推進する事業を市に提案する」という最終目標を達成する事が出来るのではないだろうか。

8 活動を終えて

私達はこの1年間「ゼロから1を生み出す活動」を行ってきた。それぞれ学部や専攻が違うメンバーが集まる事で広い視点で客観的に鳥取市を見つめ、課題について議論を深めることが出来たと感じている。本会議は、鳥取市について真剣に考える機会となり、課題解決のための政策を考案する難しさを実感した。学生それぞれの得意分野をフル活用し、1年間をかけて考えを深める事が出来たこの経験は非常に貴重な物であった。

以下、令和3年度とっとり若者地方創生会議のメンバーによる1年間活動を通して感じた思いを明記する。

会長 上野 莉里花

今年一年間は自分にとって、「とても緊張感のある一年」だったと感じている。なぜならば、会長として委員全体をまとめて、会議などの活動を引っ張っていかなければいけないという責任感をこの一年間は強く感じていたからである。だが、それでも私が挫けず楽しく一年間活動をやり遂げることができたのは、私たちの活動をいつも支えてくださった市役所の方々や地域の人々、そして何よりも一緒に活動に取り組んできたメンバーの支えが因为有る。いま一度この場をお借りして感謝申し上げたい。今回の活動を通して改めて、「0から1」を企画することの大変さと責任感を学べる貴重な経験をさせて頂き、共にこのメンバーと一年間最後まで走り抜けられたことを嬉しく思う。

副会長 下江 信之介

若者会議の活動を通して、鳥取市の課題や行政の取り組みについて理解を深めることができた。特に、鳥取市の若者定住に関しては、新型コロナウイルスの世界的な蔓延を受けて、大きく変化する社会、新たな価値観によるニーズに柔軟に対応する施策の重要性を強く感じた。今後鳥取市の未来を考える上で、本会議で習得した知識を活用し、鳥取市の若者として調査、研究を続けていきたい。

活動に協力していただいた市民の方々、会議を運営していただいた市職員、そしてともに議論を行った委員に感謝し、若者に寄り添う魅力ある鳥取市の発展を強く願う

委員 清水 愛結

「いちから何かを立ち上げる」その難しさや面白さを私はこの活動を通して知る事が出来た。「1年間を通してあなた達は何を市長に、そして鳥取市に提言しますか？」私達に課された1年間のミッションだった。何に焦点を当て、何を形として残すのか。全く縛りの無い状態から自分達で考え、企画する事はかなり難しい事であったと実感している。しかしそれと同時に面白さもあった。別々の学校から集まった7人のメンバーはそれぞれが意思や考えをもち個性豊かであり、所属する学部や分野も全く違った事から、会議で議論する際も様々な視点から物事を考える事が出来たように感じている。また、市役所や地域の団体の方々が関わっているといった事から企画を考える上でも責任が伴うという事を実感した。私はこの活動を通して、大変さというのはもちろんあったが、それよりも楽しさや面白さというのが大きかったように感じている。加えて地域課題とはそもそも何なのかを再確認する事が出来たと同時に、その課題解決に向けて自分達でアイデアを提案できる貴重な機会だったと思う。そしてこのメンバーと一緒に1年間活動を出来た事を嬉しく思う。

委員 下家 若佳奈

私は、恥ずかしながらこの若者会議に「とりあえず」という生半可な気持ちで参加した。初回の時点で雰囲気吞まれてしまい、「場違い」と感じていた。このまま続けるべきか、それともやめるか、考えたことも多くあった。しかし、ここまで続けることができたのは、会議のメンバーはもちろん、市の担当者をはじめとする鳥取市の方々の支えがあったおかげである。また、市役所での会議や佐治での動画撮影を通して、多角的に鳥取市を知れたことも続けることができた理由の一つと言えるだろう。会議では、メインテーマから逸れ、回り道をしてしまうこともたくさんあったが、様々な価値観を持ったメンバーと意見を交わすことができ、一人の人間として成長することができた。恐らく、今後この七人で活動することはないが、この経験を活かして今後の学生生活を送っていきたい。

委員 田村 結依

今回、若者会議に参加をさせてもらい1年を通して活動を行う中で、更に鳥取のことを好きになった。生まれも育ちもずっと鳥取で生活してきたが、自分では気づくことの出来なかった鳥取の良さを教えて頂いたり、他県から見た鳥取の課題や会議を重ねる毎に見えてくる鳥取の課題に向き合うことができたと思う。また、1から計画をして実行に移すことの大変さも実感した。上手く進むのだろうかと不安になることもあったが、この7人で活動してきたからこそイレギュラーなコロナ禍にも負けず最後まで来れたと思う。将来はここ鳥取で地域を大切に活動してみたい！と思っているので学生の中に地域に触れることができ貴重な体験となった。この会議を通して仲間を含め沢山の方々に出逢うことができ、とても楽しい1年だった。

委員 藤田 颯司

今回、若者会議に参加することで、鳥取について真剣に考えることができた。普段何気なく鳥取で生活していたが、活動に参加することで、鳥取の新たな魅力・課題を見つけることができた。学生の中に市役所主催の地域活動に参加できるのは、本当に貴重な体験な体験であった。この経験を生かし、学校生活や将来に役立てたい。

学部や学校の違うメンバーと様々な意見を交わすことで、新たな視点から物事を考えられるようになる良い機会となった。既に地域活動に参加しているメンバーの話はとても新鮮で、地域活動参加への意欲が湧いた。

私の主観だが、現在の鳥取の若者は鳥取にあまり関心が無いように思える。そのため、“若者に鳥取の現状を知ってもらう機会“として、若者会議をもっと広める必要があると感じた。

委員 吉澤 美月

この若者会議を通して、鳥取の現状を含めた問題点、その問題に対する改善点を長い時間をかけて考えることが出来たと感じている。自分と違う学びをしているメンバーからはたくさんの刺激や自分とは違った視点や考えを教えてもらい、より自分の考えをより良いものにすることができた。学生という立場で自分たちが先頭に立ち、鳥取の地域振興のために活動できる機会はなかなかない。そのため、このような機会に出会い、コロナ渦の中でイレギュラーなこともあったが、実際にこのメンバーで最後まで活動できて良かったと心から思っている。この経験を自分の将来や残りの学生生活に活かしていきたい。